

令和3年度 学校教育自己診断の結果と考察

1、回収率

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
児童生徒 (%)	143/272(53%)	187/271(69%)	168/252(67%)
保護者 (%)	220/267(75%)	221/266(83%)	189/252(75%)
教職員 (%)	126/129(98%)	127/127(100%)	117/117(100%)

【分析】

・回収率が児童生徒、保護者、教職員それぞれに減少した。アンケート回答方法を google フォームに変更したため、操作への慣れや、PC での不具合が影響したと考えられます。またコロナ禍により保護者の学校訪問機会が減少し、回答することが難しかったということが自由記述等から推察できます。

2、集計結果について

回答欄の「そう思う」「だいたいそう思う」の合計を肯定的評価、「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計を否定的評価として捉えました。肯定的評価は70%以上を達成のための基準とし、否定的評価は30%以上を課題として捉えています。（肯定的評価70%以上、否定的評価30%以上の項目に網掛けをつけています。）

(1) 児童生徒アンケート集計		肯定的	否定的
1	学校へ行くのは楽しいですか。	89%	4%
2	先生は、あなたが大きくなった時のことを教えてください。	40%	6%
3	先生は、あなたが困ったときに話を聞いてくれますか。	82%	1%
4	先生は、マナーやルールなど、勉強以外のことも教えてください。	88%	1%
5	学校の給食はおいしいですか。	86%	4%
6	先生は、あなたががんばったことをほめてくれますか。	94%	0%

【分析】

・肯定的評価が70%の基準に達したものは、6項目中5項目ありました。
・否定的評価が30パーセント以上の課題は、6項目中0項目でした。
・基準に達しなかったものは1項目ありました。No2「大きくなった時のこと」は肯定的評価が40%でした。わからないという回答(54%)が多いのは昨年度と同様の結果でした。質問文やいっしょに記述するキーワードを工夫するとともに普段からキャリア教育の充実を図り、児童・生徒が学校生活に照らし合わせて考えやすいようにしたいと考えています。

(2) 保護者アンケート集計		肯定的	否定的
1	子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	89%	8%
2	教職員は、子どもの実態・課題にあった授業を行っている。	91%	0%
3	教職員は、それぞれの学部、学年の実態に合わせて適切なキャリア教育（進級、進学、就労等）を行っている。	80%	2%
4	教職員は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	64%	1%
5	教職員は、子どもの発達段階や実態に応じて生命を大切にする心や社会ルールを守る態度の育成に努めている。	87%	1%
6	教職員は、子どもの様子や必要な事項を懇談会や授業参観、連絡帳、便りなどによって発信している。	97%	1%
7	教職員は、施設・作業所や企業、進路の手引きや説明会などの情報を提供している。	89%	2%
8	教職員は、授業参観や学校行事に保護者が参加しやすいように工夫している。	89%	3%
9	教職員は、子どもの障がいについて理解している。	94%	3%
10	教職員は、子どもたちの学習環境として校内の施設・設備を適切に整えている。	90%	0%
11	教職員は、パソコン、大型テレビ、iPadなどのICT機器を効果的に活用している。	78%	4%
12	教職員は、防災対策、防災教育を適切に行っている。	90%	0%
13	教職員は、子どもの個人情報の取り扱いに配慮している。	87%	2%
14	教職員は、個別の教育支援計画について、本人・保護者のニーズを踏まえて作成している。	92%	5%
15	教職員は、子どもに関する保護者の悩みや相談に適切に応じている。	97%	1%
16	子どもは、学校の給食を楽しみにしている。	89%	4%

【分析】

- ・肯定的評価が70%の基準に達したものは、16項目中15項目でした。
- ・否定的評価が30パーセント以上の課題は、16項目中0項目でした。
- ・肯定的評価が97%の項目が「6:教職員は、子どもの様子や必要な事項を懇談会や授業参観、連絡帳、便りなどによって発信している。」及び「15:教職員は、子どもに関する保護者の悩みや相談に適切に応じている。」の2項目あり、保護者との連携が普段からとれていることが示されました。
- ・達成に達しなかった項目「4:教職員は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」が、肯定的64% 否定的1% わからない35%でした。「わからない」の回答が昨年度までと同様に多く、いじめを実感する場面が想定しづらかったと推察できます。また、1%の否定的評価があったことを重く受け止め、組織的に迅速に対応できる体制づくりに努めていきます。

(3) 教職員アンケート集		肯定的	否定的
1	教職員は、教育活動について、教職員間で日常的に話し合っている。	92%	6%
2	教職員は、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている。	83%	11%
3	教職員は、命の大切さや社会のルールを守る態度の育成をめざした生活指導をしている。	93%	6%
4	教職員は、進級、進学、就労等について、児童・生徒が興味・関心、適性に応じた進路選択ができるよう指導を行っている。	80%	8%
5	教職員は、児童・生徒の人権を尊重し、いじめや体罰、不適切な指導を見逃さない体制を整えている。	91%	7%
6	教職員は、児童・生徒や保護者が悩みや疑問を気軽に相談できる体制を整えている。	91%	6%
7	教職員は、学校行事が児童・生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。	93%	4%
8	教職員は、児童・生徒の学校での様子を、連絡帳や便り、HP などを通して積極的に伝えている。	96%	2%
9	教職員は、児童・生徒の実態・課題にあった授業を行っている。	94%	1%
10	教職員は、保護者が授業参観や学校行事に参加しやすいように配慮している。	91%	3%
11	教職員は、児童・生徒の学習環境として校内の施設・設備を適切に整えている。	88%	6%
12	教職員は、個別の教育支援計画や個別の指導計画を日々の指導に活かしている。	84%	10%
13	教職員は、防災対策、防犯対策を適切に行っている。	87%	6%
14	教職員は、学年会、部会、分掌などの各種会議を、意見交換や合意形成の場として有効に機能させている。	88%	10%
15	教職員は、食育に関する指導を工夫し、児童・生徒の興味・関心を広げている。	71%	15%
16	校長は、自らの教育理念や学校運営の考えを明らかにし、リーダーシップを発揮している。	87%	7%
17	学校納付金の徴収について概ね理解できている。	63%	31%
18	行事の計画について、事務職員と教員の連携が取れている。	65%	14%
19	児童・生徒の健康状態について、保健室と教員で共有できている。	94%	3%

【分析】

- ・肯定的評価が70%の基準に達したものは、19項目中17項目でした。
- ・否定的評価が30パーセント以上の課題は、19項目中1項目でした。
- ・現在、小学部、中学部ではNo.17「学校納付金の徴収」、高等部はNo.15「食育に関する指導」について取り上げて、研修等を実施し改善に努めている。

【自由記述について】

- ・保護者の方からは、コロナ禍で参観等ができずアンケートに答えにくかったこと、連絡帳等でしっかりと情報提供および相談ができていること、子ども自身が毎日楽しく学校に通い、教員・学校が大好きという記述をいただきました。ありがとうございました。
- ・教職員からは、教員間の連携、今回のアンケートの回答方法への記述がありました。
- ・たくさんの記述をしていただきありがとうございました。